

福井支院完成報告と

ご利用案内

昨年春に、若院が東京から福井に戻り、福井市内に福井支院を構えることになり、多くの方々のご尽力により完成しました。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

一番大切な御本尊様は、もともと田野の道場で拝まれていた阿弥陀如来の御木像が、回り回って美山の遠い親戚宅に預けられ、処分寸前だったところを引き取りました。

須弥壇などの仏具は、足羽山山上の福井忠霊場という戦没者を祀る場所にあった本堂が取り壊されることになり、戦没者遺族が手を合わせた仏具を無下にはできないという思いが紡がれて、福井支院で引き継ぐことになりました。

○ご利用案内○

都市部では、お寺やホールで法事をした後に家族親戚で飲食店に移動して食事をする方がほとんどです。

福井支院は福井市の中心部という好立地ですので、周りに飲食店もたくさんありますし、お食事の後には買い物にも行きやすい場所です。便利な福井支院をご利用ください。

福井支院は、雲乗寺本堂で法要するのと同じように、利用料は無料です。冷暖房完備で、どの季節も快適にお参りできます。また、現代社会に沿ったイス席で、最大20名までお参りできます。ただし、法要・儀式は雲乗寺僧侶に限らせていただきます。門徒以外の方もお気軽にご相談ください。

いつでも見学できますが、不在の場合もあります。お越しになるまえに、一度電話にてご確認ください。

【福井支院】

住所・福井市春山1-9-12
電話・0776-43-0316

どうぞお参りください

雲乗寺インターネット

別院はじめました

インターネットの普及が進み、僧侶ユーザーも珍しくありません。若院もユーザーを始めました。その名も「雲乗寺インターネット別院」です。読経動画や過去の法話動画なども配信しています。左のQRコードを読み込むか、検索してください。チャンネル登録もよろしくお願います。完全無料です。



令和六年 冬 創刊号



令和六年 雲乗寺新聞 「光雲無碍」創刊

年に2回、寺の活動や行事等お知らせする雲乗寺新聞『光雲無碍（こうんむげ）』を発刊します。

『光雲無碍』は、雲乗寺のご門徒に少しでも仏教に触れてもらいたいという思いのもと配布される雲乗寺手作りの新聞です。浄土真宗の教えを噛み砕いてお伝えしていきたいと思えますので、どうぞお読みください。

なお、ご意見ご要望があれば、編集責任者の若院までご連絡ください。

『光雲無碍』とは

どういう意味？

初回は、新聞の名前「光雲無碍」の意味を解説します。

「光雲無碍」とは、親鸞聖人が名前の一字をいたたくほど尊敬された中国の僧侶「曇鸞（どんらん）大師」のお言葉です。正式には「光雲無碍如虚空」というお言葉です。

「光」は仏様の智慧の働きを表します。仏壇に灯明を点けるのも仏様の働きを表しているものです。仏様の光、それは人生の行く先を照らし出してくれる光なのです。

「雲」は雨を降らせる、恵みの象徴です。水は生命の源であり、命を育みます。全ての生き物は水がないと生きていけません。雨が降るから草木が育ち、飲み水ができて食べ物が育ちます。

「無碍」の碍は「さわり」と読み、障害物を表す言葉です。それが無いということですから、邪魔するものがない。

「如虚空（によこくう）」とは、如は「〜のようだ」、虚空は大空という意味です。

だから「光雲無碍如虚空」を噛み砕くと「仏様の働きやお恵みは邪魔するものがありません。それは太陽の光や恵みの雨が降り注ぐ大空のようなものです」という意味になります。

太陽の光や、恵みの雨が分け隔てなく降り注ぐように、仏様の恵みは全ての人に行き届いています。その恵みに気付かせていただくのが、お寺の行事であり、家の法事であり、日々のお参りではないでしょうか。

忙しなく過ぎていく毎日が「光雲無碍」を通して少しでも心豊かな生活となりますように。

令和六年度

雲乗寺報恩講厳修

令和六年十月二十四日～二十六日まで、当寺報恩講が厳修されました。

報恩講とは、浄土真宗を開かれた親鸞聖人の御命日の法要です。各ご家庭でもお勤めしますが、お寺の報恩講はさらに特別な法要です。

大勢の僧侶の読経や、普段聞く機会のない法話など、親鸞様の命日を縁としてお念仏の教えに触れていた、ごく最も大切な行事です。

二十四日には戦没者追悼法要も兼修され、若院が登壇し恭しく法要が勤められました。

その後の法話では、縁に導かれてお参りさせていただく有り難さを、大河ドラマ「光る君へ」に因んだ話を通して味わわれました。

縁というものは全く不思議なもので、良い縁ばかりあればいいけれども、それ以上に遇いたくない縁が起るものなのです。

しかし、そのようなつらい縁、悲しい縁を通して仏様とのご縁が結ばれるのではないのでしょうか。

紫式部と同年代を生きた和泉式部という方は、百人一首に歌が載っている才能豊かな詩人です。

和泉式部はやがて娘を授かりました。娘の名は小式部内侍（こしきぶのな いし）といい、和泉式部に負けず劣らずの才能を受け継ぎ、母と同じく、百人一首に歌が残されています。

そんな小式部内侍もやがて結婚し、新しい命を授かりました。

ところが現実には残酷なもので、出産して小式部内侍が亡くなりました。

この現実には和泉式部は絶望しました。その心境を詠まれた歌です。

子は死して 辿り行くらん死出の旅
道知らぬとて 帰り来よかし

死後の世界から、どうにか帰ってきてほしいと願った歌ですが、死後の世界から戻れる者はいません。

やがて亡き娘のためにお参りを始めた和泉式部ですが、その後の心境の変化を詠んだ歌が残っています。

夢の世に あだに儂き 身を知れと
教えて帰る 子は知識なり

この世の命は、次の一息が吸える保証はありませんよと、その命をもって教えて帰ったあの子は、私の先生でした。

とただかれたのが和泉式部でした。今も昔も故人様ご先祖様が、仏様とご縁を結んでくださるのです。限りある命です。お寺の行事に参加して、仏様の教えと一緒に聞きましょう。

雲乗寺 寺族紹介



住職 長谷部祐円

数年前の定年退職まで教師をしながら住職の責務も果たしてきた。元々体育教師だったこともあり、現在でも青少年のスポーツ協会で役職を担っている。東本願寺の理事も勤めている。



坊守 長谷部伊津子

石川県白峰村より嫁いできた。坊守の傍ら、今でも郵便局 六呂師簡易局の手伝いもしている。内孫も外孫も坊守にべったり。



若院 長谷部祐真

18年勤めた東本願寺を退職し、昨年より雲乗寺に戻った。現在は、より多くの方に仏教を弘めるため、全国寺院での布教や、福井支院にて門徒を増やす活動をしている。



若坊守 長谷部稚菜

東京生まれ東京育ち。平成23年に若院と結婚。お寺の右も左も分からない状態で、日々奮闘中。6年前に指定難病の「もやもや病」を発症するも、現在は健康者同様に元気な生活を送る。犬猫が大好きで、ペット番組を見て涙する一面も。



長女 一花
次女 風花
長男 祐善

一花（6年） 風花（4年） 祐善（年中）の三姉弟。東京生まれ。昨春より福井市内の学校幼稚園に通う。雲乗寺のムードメーカーであり騒音元。

住職夫婦は六呂師に、若院家族は福井市内に住んでいます。それぞれ雲乗寺と雲乗寺のご門徒のために色々な活動をしています。

仏教が身近にあると、心穏やかな生活に繋がります。仏教が無い生活は心が渴いた生活になってしまいます。

法事・お仏壇・お墓等でお困りのことがございましたら、どのような事でもお気軽にご相談ください。